

青丘文庫研究会 月報

No.251

2011年3月1日

青丘文庫研究会 〒657-0064 神戸市灘区山田町3-1-1 (財)神戸学生青年センター内
 TEL 078-851-2760 FAX 078-821-5878 <http://ksyc.jp/sb/> e-mail hida@ksyc.jp
 在日朝鮮人運動史研究会関西支部 (代表・飛田雄一)
 朝鮮近現代史研究会 (代表・水野直樹)
 郵便振替 < 00970 - 0 - 68837 青丘文庫月報 > 年間購読料 3000 円
 他に、青丘文庫に寄付する図書を購入費として 2000 円 / 年をお願いします。

< 巻頭エッセー >

「在日済州島出身者の生活史を記録する会」の ことなど

高 正 子



63年前の1948年4月3日、済州島では植民地からの解放の喜びを満喫するまもなく、朝鮮半島に新たな悲劇の火種がもたらされました。解放後の朝鮮全土で活動していた「人民委員会」は済州島でも活発な活動を行っていました。そのような最中の1947年3月1日、「3・1節記念集会」が多くの済州島民の参加の中で行われたのですが、鎮圧に出た警官の発した銃弾によって6人が犠牲になり、そのことが導火線となり、翌年の4月3日に南朝鮮だけによる「5・10単独選挙」反対を叫んで、済州島民が警察署や右翼団体に攻撃を加える事件が起こったのです。いわゆる「済州4・3事件」と呼ばれるこの事件は、大韓民国建国以前に起こった事件であり、この事件が悲惨を極めたのは1948年11月から約4ヶ月間にかけて行われた焦土化作戦でした。この作戦によって済州島民に甚大な被害を受けました。4・3事件の終決宣言が出される6年余りの間に30万といわれた島民の約1割が犠牲になったと報告されていますが、その後も韓国社会のなかで猛威をふるった連座制によって4・3事件のことを語ることはタブーとされてきました。当時、済州島は「アカの島」というレッテルが貼られ、「反共」を国是とする韓国社会のなかで済州島出身者であるということを語るのも憚られたといえます。武装隊の司令官であった李徳九と同じ村で生まれ育ち、当時まだ子どもであったために村の見張りに駆りだれていた朴仁中さんは、4・3事件以後に軍隊へ入隊し軍人になったのですが、転々とした赴任先では「済州島出身者だとは言わずに、忠清道出身だといっていた」と私に話してくれました。このように済州島民は記憶を封じ込め、4・3事件を引き起こした武装隊にすべての責任を被せることで記憶のすり替えながら生きていきました。

大阪には4・3事件後に密航という形で日本へ渡ってきた人たちがいることは、すでにご存知かと思いません。金時鐘詩人がそうだということは良く知れたことです。済州島で犠牲者の人々への聞き取り調査が始まった1998年頃に、国際シンポジウム(東アジアの国家テロリズムに関する)に関わった者たちのなかから、済州島の調査では日本にいる済州島出身者がもれていること、そして解放直後の在阪朝鮮人(その多くは済州島出身者が占める)の生活史を記録しておく必要があるという声が上がりました。そして、「在日済州島出身者の生活史を記録する会(以下記録する会)」が作られました。「記録する会」ではこれまで2年間の休会を除いて、10年に渡って在日済州島出身者で4・3事件にかかわる人々を中心に聞き取り調査を行い、その内容を整理して発表してきました。今年は、その成果を韓国語に翻訳してソウルの出版社から刊行する予定です。日本に居住する済州島出身者の調査を通して明らかになったのは、多くの済州島出

身者が解放前後の時期にいったん済州島に帰りながらも、4・3事件前後の政治的混乱を避けるため、あるいはその後の生活における困難のために、日本に再渡航したケースがしばしば見られました。こうした郷里の悲劇が、在日の済州島出身者の人生に大きな影を落としていることは言うまでもありませんが、かれらの日本での生活体験とともに、まさしく東アジア現代史の矛盾の縮図とも言うべき事象であります。韓国においては1999年12月に国会の本会議に「4・3真相糾明及び名誉回復のための特別法」が制定され通過し、2003年10月15日には「4・3特別法」によって構成された「済州4・3事件真相究明及び犠牲者の名誉回復委員会」によって「済州4・3事件真相調査報告書」が出され、それに基づいて10月31日に故ノ・ムヒョン大統領が済州島民に対して国家権力による大規模な虐殺が行われたことを認定し、公式謝罪しました。このような過程を通して済州島では4・3事件に関する人々の記憶を蘇らせる作業と同時に、チョントウル飛行場（済州空港飛行場）での遺骨の収集をはじめとする虐殺現場での遺骨収集が行われています。現在、済州島では4・3事件当時の実像が徐々に明らかにされつつあります。しかし、犠牲者追悼のメッカである4・3平和公園の位牌奉安所に安置された位牌のなかには、4・3事件を引き起こしたとされる武装隊の人々の名前は刻まれていません。例えば、武装隊の司令官であった李徳九をはじめ武装隊として認知されている人々の名前はないのです。死者に対する新たな選別が行われているといえるでしょ。



第278回朝鮮近現代史研究会（2011.1.9）

朝鮮と日本の国策紙芝居 鈴木常勝

朝鮮語紙芝居

『かはいい孫娘』（1942年7月21日発行） - 親切な日本人に出会って、頑固なおじいさんが日本語を学び始める。

『半島の陸鷲』（1943年7月25日発行） - 朝鮮人志願兵の模範と彼を支える家族。飛行兵になった彼は戦死するが…。

以上の2篇の戦時期出版の国策紙芝居を実演（2篇とも後半部分の十枚の実演）し、その後国策紙芝居の歴史を解説した。この2篇の朝鮮人向け国策紙芝居は、脚本（紙芝居では「裏書き」という）が日本語と朝鮮語で印刷されている。

脚本は日本語も朝鮮語も同じ内容だが、研究会参加者に雰囲気を感じてもらうために、日本語脚本を鈴木が読み、朝鮮語脚本を会員の堀内さんに朗読してもらった。そのため、十枚の作品（作品の半分、後半のみ）を演じるのに20分もかかり（普通は全篇を読んでも長くても20分ほど）、見ている方は冗漫に感じたかもしれない。堀内さんによれば、朝鮮語は古い言い回しで書いてあるので読みにくかったそうだ。日本語には古い言い回しはなかった。

現在、私の知る朝鮮人向け国策紙芝居はこの2篇のみ。国際子ども図書館 = 「国会図書館の分館」に所蔵されているこれら2作品は、使った形跡がなく検閲用に保存されていたものだと考えられる。国際子ども図書館所蔵の他の国策紙芝居も新品同様である。

朝鮮で国策紙芝居がどのように使われていたのかは、現在のところ裏付ける資料は発表されていないように思う。私は朝鮮語にうといので、あるいは「朝鮮域内での国策紙芝居実演」にふれた朝鮮語論文が存在するの

かもしれない。ご存知の方はご教示ください。

日本の国策紙芝居には、戦地での日本兵の活躍を描く「戦場もの」と銃後で兵士を支える留守家族を描く「人情もの」の二系列がある。前者は「軍事活劇」「ヒーローもの」であり、後者はお涙頂戴の「軍国美談」である。『陸鷲』は前者、『孫娘』は後者に含まれる。

興味深いのは、子ども向け大衆娯楽である街頭紙芝居が、少年向けに血沸き肉踊る「冒険活劇」、少女向けにお涙頂戴の「少女悲劇」をそろえていたのと、同じ構成であることだ。

研究会当日、「これらの朝鮮人向け国策紙芝居の観客はどんな層か」という論議があった。

国策紙芝居は主に、文字が読めず、演説の類を嫌う庶民(大人)を想定して作られた。マスコミという「自動車部隊」に対し、「紙芝居は国策宣伝の自転車部隊」というスローガンがあった。主人公も農民や職工が多く取り上げられている。

朝鮮人向けの作品の主人公は「地主」(『孫娘』)、「村(面)の有力者」(『陸鷲』)であり、紙芝居の観客に想定しているのも、「民族主義」的な頑固な中高年世代なのではないかとの指摘があった。この指摘通りだとすると、国策紙芝居の想定観客が日本と朝鮮とでは異なることになる。この点を明らかにするためには、実演場所、実演している場面を裏付ける資料が必要となる。

『陸鷲』は主人公の「戦死」で終わるが、「戦死が戦意高揚に役立つのか?」という疑問が研究会で提示された。戦中は「出征=戦死」というタテマエ(それが戦況悪化と共に現実になっていく)が世間をおおっていたため、「戦死は戦意高揚に水を差すものではない。むしろ、敵愾心を高める」という「空気」もあったのではないかと、という解釈も成り立つ。実際、戦争体験者から「戦争状態が当たり前」「出征はこの世との別れと思っていた」という証言を聞くことも多い。戦争から遠い今は「戦死の物語が戦意高揚になるはずがない」と思うが、それは「戦中の空気」を知らぬゆえの皮相な決め付けかもしれないという留保も必要だろう。いや、「平時も仇討ち物語の『忠臣蔵』に魅せられ、主君のために命を捨てる四十七士の覚悟に涙する日本人ゆえ、今も戦時期の空気を漂わしている」と見なせば、戦時の日本人と今の日本人の違いは何かという問いにつながるだろう。

研究会では、芸能としての「紙芝居屋の紙芝居」(手描きの絵)と、教育(啓発、プロパガンダ、洗脳)としての「教育紙芝居」(印刷物)の違いを、「紙芝居の歴史」として紹介しました。また、「朝鮮における紙芝居」にかかわる二つの文章も配布しました(文の提供者、仲村修さん、水野直樹さん、ありがとう)。

【紙芝居史と街頭実演の本】 鈴木常勝執筆

- 『戦争の時代ですよ!』(大修館) - 大学生・留学生と見る国策紙芝居の世界
- 『メディアとしての紙芝居』(久山社) - 戦前・戦中の紙芝居史
- 『紙芝居がやってきた!』(河出書房) - 戦後の紙芝居、紙芝居屋史
- 『紙芝居は楽しいぞ!』(岩波書店) - 紙芝居下げて日本・アジアあっちこっち
(土門拳・筑豊写真、上野英信・絵物語「せんぶりせんじが笑った」収録)
- 『上海裏町ブギウギ』(新泉社) - 紙芝居中国漫遊
- 『保育に生かす紙芝居』(かもがわ出版) - 保育現場の紙芝居ルネッサンスを

広告

むくげブックレット

信長正義「東学農民革命の遺跡地をたずねて」

A4、40頁、カラー、定価400円(送料80円)

希望者は、郵便振替<01120-5-46997 むくげの会>
または80円切手6枚をむくげの会までお送りください。



青丘文庫研究会のご案内

在日朝鮮人運動史研究会関西部会

お休みです。

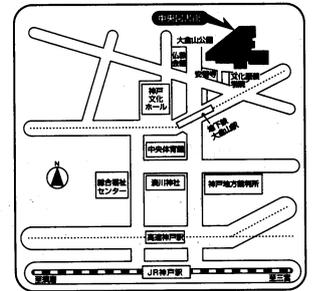
第280回・朝鮮近現代史研究会

3月13日(日)午後2時30分～5時

「南北分断の端緒・1945年春～夏、半島南部で行われた朝鮮軍の

『本土決戦』準備 - 韓国KBSの番組DVD鑑賞と解説」 塚崎昌之

会場 神戸市立中央図書館内 青丘文庫 TEL 078-371-3351



【今後の研究会の予定】

2011年4月10日(日) 在日(未定) 近現代史(未定) 5月8日(日) 在日(未定) 近現代史(佐野通夫) 研究会は基本的に毎月第2日曜日午後1～5時に開きます。報告希望者は、飛田または水野までご連絡ください。

【月報の巻頭エッセイの予定】

4月号以降は、斉藤正樹、坂本悠一、砂上昌一、高野昭雄、全淑美、塚崎昌之。よろしくお祈いします。締め切りは前月の10日です。

【編集後記】

- みなさんいかがお過ごしでしょうか。私の職場の神戸学生青年センターでは、古本市の準備が始まりました。昨年の新記録414万円を越えることができるか？ 掘り出し物もあります。ぜひお越しください。また古本を受け付けています。ご協力をよろしくお願いします。古本市は3.15～5.15、本の回収は3.1～3.31です。
- 7月または8月にソウルで在日朝鮮人運動史研究会と韓日民族問題学会(韓国)が共同で合同研究会を開きます。また5月28～29日には、神戸学生青年センターで強制動員真相究明ネットワーク主催のシンポジウムが開かれます。また詳細をお知らせします。ご参加をよろしくお願いします。

(飛田雄一 hida@ksyc.jp)